合戦〔その2〕　**室町時代**

高山城下の戦い

（小早川当主・11代熙平　＊在位年間;1433～1472）

＊時代背景　；京都で始まった室町幕府管領の細川勝元と山名宗全の争いは、たちまち地方に波及した。軍奉公衆であった沼田小早川氏は東軍として、竹原小早川氏は西軍の雄・大内氏から安浦の地を預け置かれていたことから、西軍として対立した。
応仁1（1467）年 応仁の乱の勃発である。

＊小早川本家と分家の戦い

応仁の乱が始まるや竹原小早川氏は芸備の国人衆の動員を得て、長年に亘って沼田小早川氏を攻め、高山城下の攻防が繰り返された。

●応仁1年（1467）から3年間
●文明5年（1473）から2年間

真良から本郷にかけて幅広く激戦が行われた。

◎小早川一族の浦氏・舟木氏・弐分氏・木梨氏や小早川氏の直属の被官真田・貞利・国貞・横見・田坂・高橋・等のほか、守護山名是豊被官・巨真寺の僧まで戦っている。

＊毛利の被官二人が頸を取られているので、当時の毛利は西軍方であったのだろう。

＊本家と分家の長期に亘る攻防戦も終焉をむかえる。

応仁の乱中、竹原小早川弘景は2回に亘って高山城を包囲した。
始めは応仁1年から3ヶ年間、その後文明5年（1473）9月から文明7年（1475）4月迄2ヶ年間戦ったが、同年、東軍・西軍の和解・調停が成立した。

（小早川当主・12代敬平　＊在位年間;1473～1499）

もともと応仁の動乱は、戦いにさいたる必然性が無く戦意のない合戦であったといわれるが、10年に及ぶ戦いで中央・地方とも厭戦気分がみなぎり終戦した。

南北朝時代の合戦絵図

# 高山城下の戦い

合戦〔その1〕　**南北朝時代**

高山城下の戦い

（小早川当主・6代朝平　＊在位年間;1298～1347）

＊時代背景　；従来から、武士社会には分割相続の慣習があり、小早川氏4代当主・茂平は積極的に各地に分家を設け勢力を伸ばしてきたが、弱小の庶流（分家）は総領家（本家）の強い支配に対立していた。
総領家体制を支持してきた鎌倉幕府が倒れ、世の中が混乱してくると、弱小庶流（分家）は自立の絶好の機会みて決起し、高山城を占拠している。

＊小早川本家と分家の戦い

●建武5・暦応1年（1338）、小早川氏庶家叛乱
　＊小早川頼平・景平ら高山城を占領。立て籠もる。
◎足利尊氏の武将若松頼有が伊予・忽那重清らを率いて高山城を攻める。
◎安芸国守護代福島左衛門四郎、国人武士らを率いて攻め落とす。
●文和4年・5年（1355～1356）　南朝方・山名時氏の連合軍から高山城攻撃を受ける。
　（小早川当主・7代宣平　＊在位年間;1347～1369）
◎竹原小早川薬寿丸救援出動して戦う。

＊南北朝の動向

①　建武1年（1334）　建武の新政
②　建武2年（1335）　足利尊氏、鎌倉で挙兵
　＊小早川総領7代当主宣平、足利尊氏軍へ参加
③　建武3年（1336）　足利尊氏入京、光明天皇を擁立
④　建武3年（1336）　後醍醐天皇　吉野に至り南朝設

名城の誉れ高い・国指定史跡

# 高山城下の合戦

TAKAYAMA JOKA　ー　KASSEN

高山城・新高山城は小早川氏の中世四百年間のこの地方の拠点であった。また、中世という時代は、鎌倉・南北朝・室町・戦国時代を通じ、武士達が今までの荘園主や国の権力者や貴族に代わり、各地に群雄割拠し、勢力拡大を図り、あるいは天下統一を目指して争っていた。
この時代、高山城下においても合戦が行われている。
一方、隆景が小早川氏１７代当主となり高山城から新高山に城替えをした、天文２１年（1552）頃には、父親の毛利元就軍団の勢力拡大が進み新高山城下での合戦の記録は見当たらない。

【参考文献一覧】

①郷土史家；池田卓三氏
　郷土史点描
②小早川氏城跡保存整備連絡協議会（2005年）版
　保存整備基本構想・基本計画策定報告書
③その他・インターネット搭載記事他

三原市　本郷町観光協会
平成27年6月発行

*ガイド案内連絡先*
三原市本郷南5丁目26-11
TEL 0848-86-5717
9時～12時・平日

合戦〔その3〕　**戦国時代**

## 高山城下の戦い　（小早川当主・16代繁平）

（小早川当主・16代繁平 在位年間：1543～1550）

＊時代背景　；戦国時代の始め頃、安芸・備後の国には西から大内、北からは尼子の強力な勢力が侵入し、小早川氏はその去就に迷う有様であった。この様な情勢の中、今まで抗争を繰返していた竹原小早川氏との融和が図られ、小早川一族が団結して敵に当るようになっていた。

＊小早川一族と勇猛を誇る・尼子氏との戦い

天文13年（1544）出雲の国から尼子国久氏の大軍五千騎が高山城に攻めてきて、高坂の大陣山・小陣山に陣を構えて相対したが、小早川氏側は乃美・椋梨・梨羽・小泉氏等一族籠城して戦った。

＊尼子軍は長期戦になれば毛利軍に退路を断たれることを恐れたのか一ヶ月足らずの戦いで、高野山（甲山の今高野山城、和智氏一族の居城）久代方面へ退却している。

尚、この戦の十年後に尼子氏は滅亡している。

【川を挟み、花崗岩の絶壁がそびえる高山城・新高山城】

高山城は、4代当主茂平（在位・1244～1264）が築城。高山城は、標高190m。その規模は雄大宏壮で総面積は15万㎡である。　高山城の立地条件は、東部から南部を通る山陽道・北西部から南部にかけて流れる沼田川の交点付近、すなわち水陸交通の要路に求められたといえる。高山は、山頂部から北東部山麓にかけて真良郷、南部に沼田郷・梨葉郷、西側には沼田川、北部から北西部に、舟木郷を眺望でき荘内を掌握する絶好の地であった。

高山城の裾野を通る古代山陽道と戦いの場の因果

いく度の戦において、高坂の真良が激戦地となっている。特に、勇猛を誇る尼子・新宮党の五千騎の南下は、古代山陽道が格好な交通路であり、真良の平坦部は戦い易い場だったと推測できる。

### 沼田小早川・歴代城主の法名と逝去年月日

| 歴代 | 当主名 | 法名 | 逝去年月日 |
|---|---|---|---|
| 初代 | 実平 | 通玄院仁山義公 | 建久2年（1191）11月25日 |
| 2代 | 遠平 | 天祥院広山寛公 | 嘉禎3年（1237）9月 5日 |
| 3代 | 景平 | 常菅院清山浄公 | 寛元2年（1244）7月14日 |
| 4代 | 茂平 | 随応院本仏祖元 | 文永1年（1264）2月15日 |
| 5代 | 雅平 | 流源院覚本浄公 | 永仁6年（1298）7月18日 |
| 6代 | 朝平 | 円通院観嶺禅公 | 貞和3年（1347）12月朔日 |
| 7代 | 宣平 | 随泉院円山照公 | 応安2年（1369）12月16日 |
| 8代 | 貞平 | 成就寺仏心本明 | 永和1年（1375）2月19日 |
| 9代 | 春平 | 仏通寺天心宗順 | 応永9年（1402）正月 7日 |
| 10代 | 則平 | 肯心院大言常建 | 永享5年（1433）正月26日 |
| 11代 | 熙平 | 宝心院本源常立 | 文明4年（1472）12月 3日 |
| 12代 | 敬平 | 長松院笑翁慧観 | 明応8年（1499）4月17日 |
| 13代 | 扶平 | 正法院惟三常因 | 永正5年（1508）正月14日 |
| 14代 | 興平 | 香積寺実厳宗眞 | 大永6年（1526）12月26日 |
| 15代 | 正平 | 成就寺天秀祖祐 | 天文12年（1543）5月 9日 |
| 16代 | 繁平 | 一珠院文室元緒 | 天正2年（1574）11月13日 |
| 17代 | 隆景 | 黄梅院泰雲紹開 | 慶長2年（1597）6月12日 |

廿四人逆修の墓　；市指定重要文化財

＊由緒　逆修ということは出陣する武士が生前に菩提を弔っておくことで、その時の塔、すなわち石塔である。

陰刻名　干時天文二年　逆修廿四人　癸巳二月

墓の規模

＊ 高さ　　0.45m

＊ 幅　　0.35m

戦う武士達の覚悟の始末！

＊当時、天文2年（1533）は足利義治12代将軍の頃で、大内義隆の全盛時代で、今川義元、尼子晴久，毛利元就が勢力を拡充するために活動を始めた頃である。この24人は誰なのか、なぜ逆修したのか、いずこの戦場に行ったのか全く不明であるが、武士達の覚悟と忠誠心を感じ取ることができる。

①雑兵達の戦場（南北朝時代）

②大鎧を着用した武士達（戦国時代）